

上ノ加江地区について

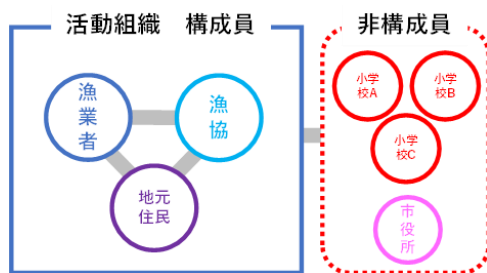
上ノ加江地区のある中土佐町は高知県中西部に位置しており、土佐湾に面する場所にある。昔は磯根漁業が盛んであったが、近年は磯焼けにより、魚介類の成育場が失われている。また、20年ほど前から町の取り組みとして観光漁業体験を行っており、好評を得てきた場所でもある。



組織の設立と活動方針

活動組織は平成25年度より、漁業者を中心に、地元の住民、町、県のサポートを受けながら開始した。

当該地区は、磯焼けによる磯根資源の衰退とともに、漁師町でありながら地区の小学生でさえ、海との関わりが希薄で、海のことをほとんど知らない状況にあることを大変危惧していた。そこで、藻場保全活動とともに、観光漁業体験で得た経験を活かし、子供の海離れや魚食離れを解決させる活動となるように、植食性魚類の除去を兼ねた漁業体験と漁師料理による魚食体験の活動を実施することにした。



活動実績

協定面積は植食動物の影響のある5地区（合計で5ha）を設定。ウニや植食性魚類が多く生息する場所にカゴを設置する。また、最近増えているガンガゼの除去と母藻投入を行っている。加えて、町内及び近隣市町村の小中学生及び父兄を対象に、観光漁業体験の経験を取り入れた体験活動を行っている。具体的には、前日までに漁業者がカゴを設置し、それを班分けされた子供たちが船に乗り込んで、カゴを引き揚げる作業を行うものである。また、カゴで捕れた生き物は、食材として調理し、保全活動の意義、食文化の大切さを教える楽しい昼食としている。

この活動は、毎年、夏から秋にかけて学校の都合に合わせて実施されている。コロナ禍の2年間は体験活動ができなかったが、平成28・29年度では、年間11～12回実施され、延べ400名ほどが参加している。

体験学習の流れ

体験学習は学校と連携して計画的に実施されている。最初に、前年度の2月頃、電話で町内及び近隣市町村の小中学校に案内を始める。興味を示した学校には、町の方と一緒に体験学習プログラムの内容、収容人数、安全体制（救命胴衣や合羽）等を説明し、納得したうえで参加してもらっている。

その後は、時期が近くなった頃に学校と漁協が連絡を取り合い、気象海象条件を考慮して活動日が決められる。連絡を密に取り合うことで、時化や雨天は概ね回避できている。

活動日には、学校側がバスを手配し現地に移動して来る。この活動は、子供たちが主体となって意欲的に取り組んでもらうため、事前に学校側で班分けを行い、班長が中心となって行動するようにしている。



①地区の漁業や藻場の実態を、パネルを用いてオリエンテーション。



②船の準備をしている間に、子供たちはカツオの三枚おろしを見学。



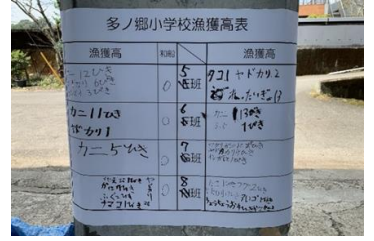
③船に乗り込んだ子供たちは、カゴの場所へ移動しカゴを引き揚げる。



④船待ちの子供は、釣り竿を借りて、物揚げ場や岸壁から釣り体験。



⑤捕獲した生き物は、自らがテーブルに並べて種類別に匹数を記録。



⑥結果を張り出すことで、次に乗る子供の意欲を掻き立てる。



⑦班ごとに分かれて成績発表。その後昼食をいただく。



⑧昼食後、子供達からのお礼の言葉をいただき閉会。

活動の成果と今後の課題

子供たちに自主的・積極的に環境保全活動に取り組ませる環境教育は意義が大きい。この取り組みをスムーズに行うことができるのは、長年行ってきた観光漁業体験の経験と自信によるものである。

当海域は現在までに、局所的ではあるがガラモ場が回復している。藻場の再生にはまだ時間がかかりそうなので、今後も活動を継続する必要性を認識している。また、子供達と漁業者らとの交流は、子供たちが楽しいそうで、活動メンバーも昔の浜のにぎわいを実感できていることから、今後も継続して行く予定である。